

水と緑とそして光と

甲子川水系小川川

ひ

な

た

日向ダム



岩手県沿岸広域振興局土木部

釜石市新町6番50号

電話 0193(27)5572 FAX (21)1106

流域一覽図



凡 例	
	集水区域
	氾らん防止区域
	不特定用水補給区域



試験湛水時 (平成9年6月)

事業の概要

甲子川は、昭和12年9月、230mmの既往最大日雨量(50年確率に相当)を記録し、釜石市小川町、小佐野地区で被害をこうむっている。

その後、同22・23年のカスリン、アイオン台風、同33年の21・22号台風により河岸欠壊氾濫が相次ぎ、最近では同47年20号台風で被害を受けている。

一方、同38年より小規模河川改修として、下流部より計画高水流量950m³/sで改修が現在まで進められているが、最近の都市化の進展に伴い合流点上、下流の甲子川、小川川に沿って、人家、公共物が密集し、都市河川としての性格が強まってきており、治水の安全度の向上が、緊急の課題となっている。しかしながら、甲子川及び小川川に沿って人家、公共物が密集し、引堤及び築堤による再改修は困難である為ダムによる治水対策を進めてきたものである。

事業の目的

○洪水調節

ダム地点の計画高水流量340m³/sのうち、310m³/sの洪水調節を行い、ダム地点下流の小川川、甲子川の水害を防除する。

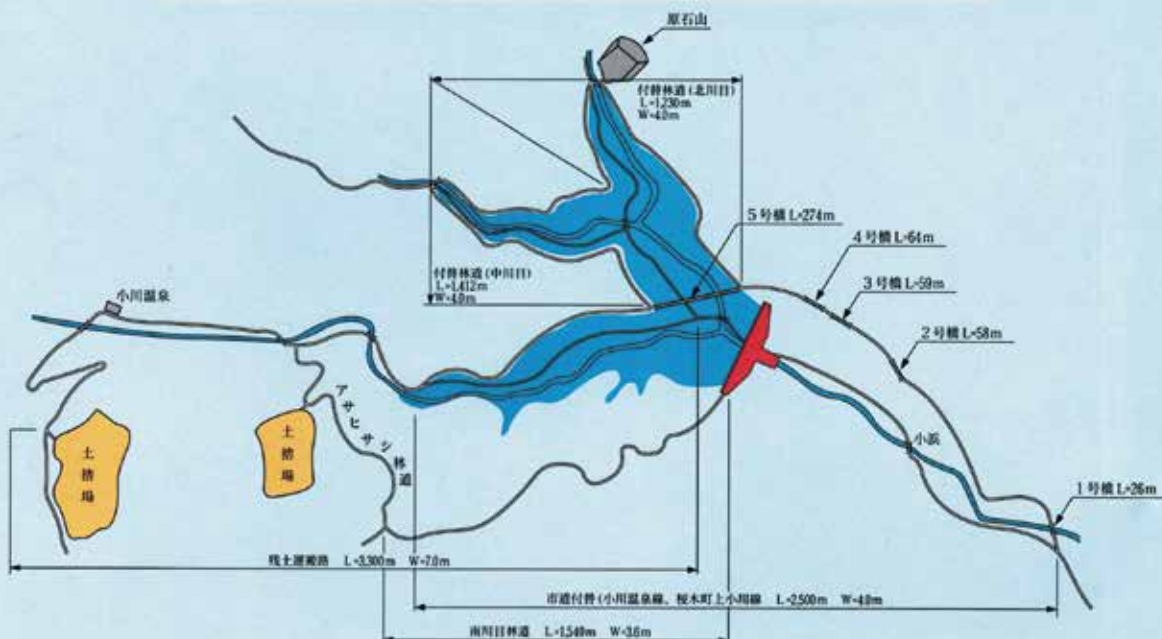
○流水の正常な機能の維持

ダム地点下流の小川川沿岸の既得用水の補給を行う等、流水の正常な機能の維持と増進をはかる。

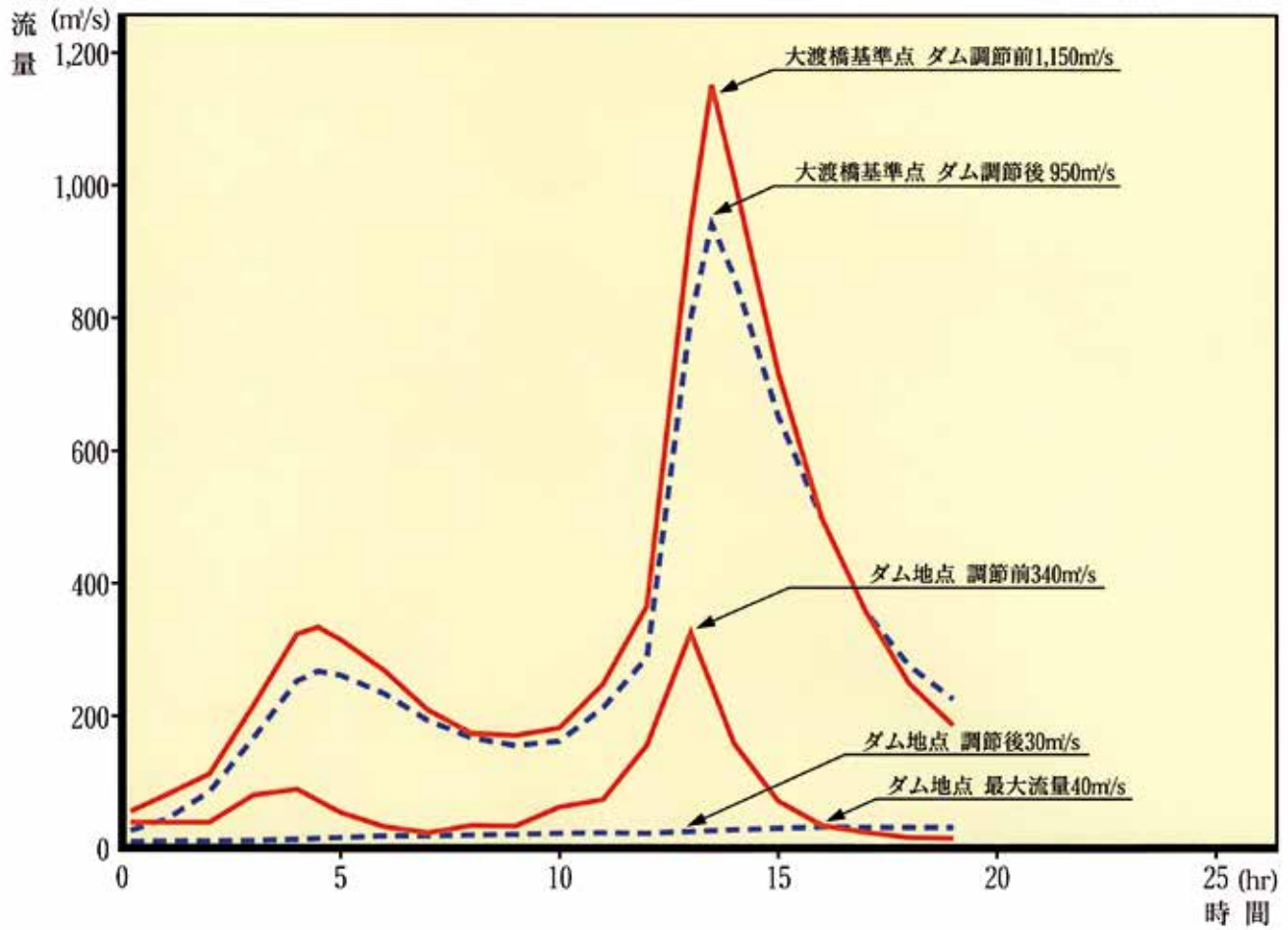


ふれあい大橋 (5号橋梁)

日向ダム事業計画概要図

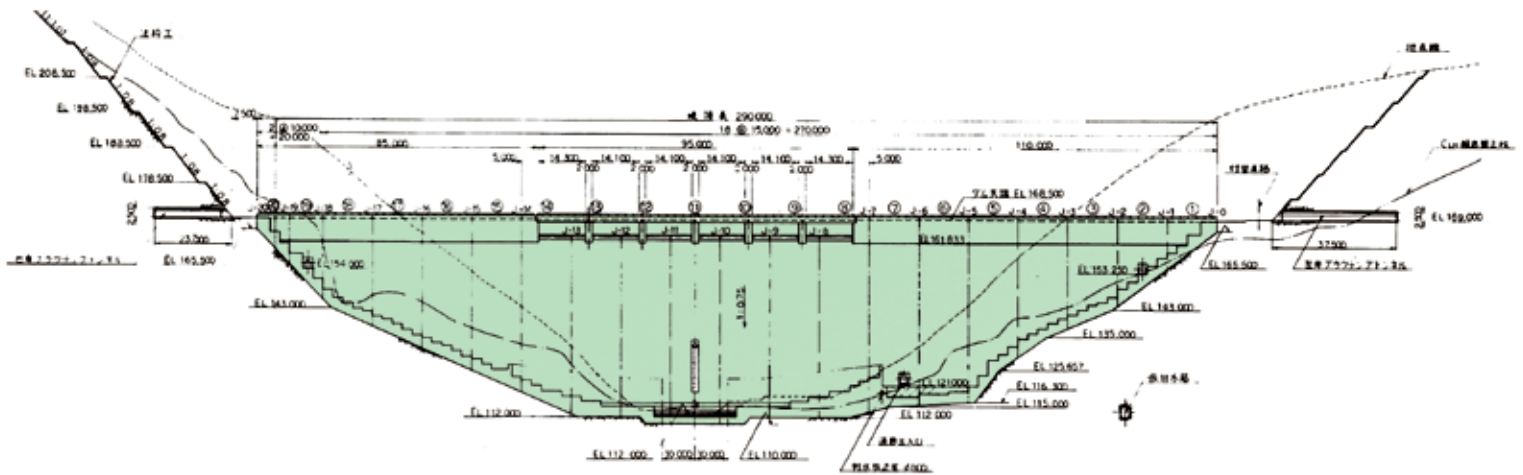


洪水調節図



ダムの構造

ダム下流面図



ダムの管理設備



展示室

ダムの働き、工事の様子を説明します

管理棟のデザイン

釜石市は、日本における近代製鉄発祥の地として知られています。それは安政4年のこと、大橋の地において日本で初めて洋式高炉による銑鉄の製造に成功したことにあります。史跡「橋野高炉跡」は、大橋に継ぎ築造されたもので往時の偉業をしのび得る貴重な文化遺産であります。

また、小川地域（わらび野）には、明治政府の官営釜石製鉄所時代、製鉄に必要な木炭を作る製炭所を置き、日本で3番目に敷かれた鉄道で木炭輸送をしていたといわれ、製鉄の歴史に深くかかわっておりました。

日向ダム管理棟は、世界遺産に登録された橋野高炉の「二番高炉覆屋」と「三番高炉石積」をモチーフにデザインしました。



操作室

ダムの働きを操作、監視します



管理用発電機

管理所に電力を供給します



管理所

橋野高炉覆屋をモチーフにしています



警報車

下流域住民に対して
広報活動を行います



巡視船

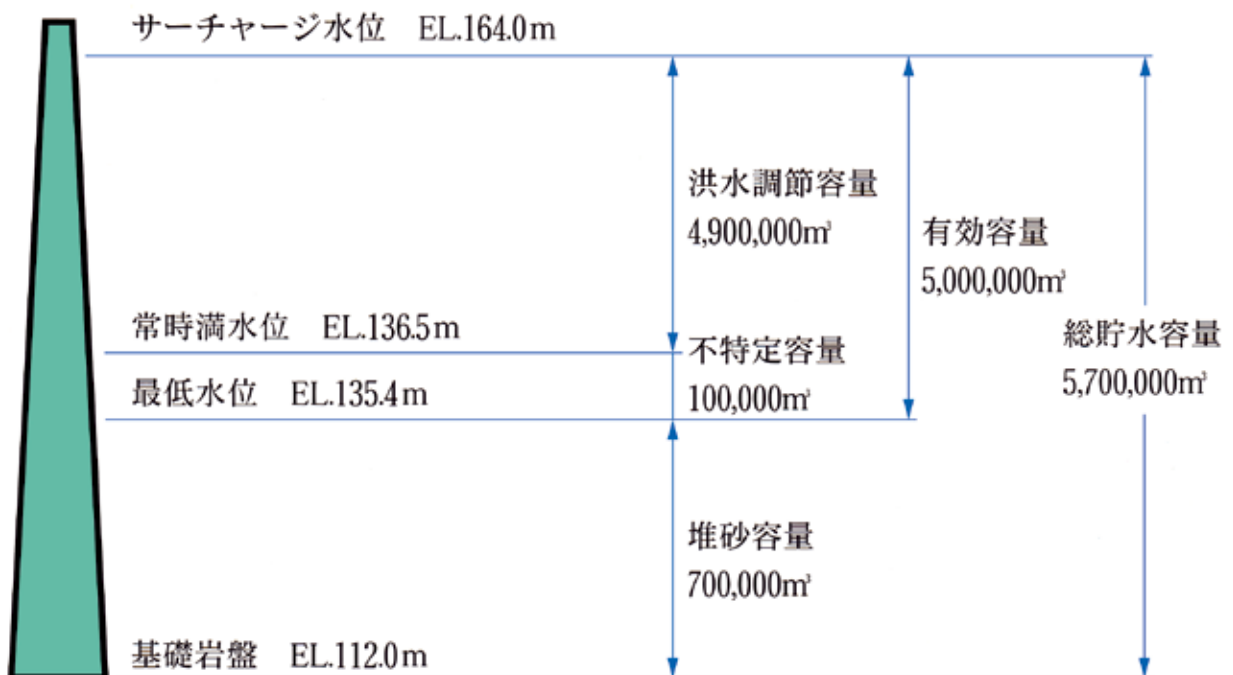
ひなた号(搭乗員5名)

ダムの規模

ダム及び貯水池等の諸元

ダム	河川名	甲子川水系左支川小川川	貯水池	流域面積	22.0km ²	
	位置	左・右岸 岩手県釜石市甲子町日向		湛水面積	0.29km ²	
	型式	重力式コンクリートダム		総貯水容量	5,700,000m ³	
	堤高	56.5m		有効貯水容量	5,000,000m ³	
	堤頂長	290.0m		洪水調節容量	4,900,000m ³	
	堤頂幅	5.1m		不特定容量	100,000m ³	
	敷幅	47.5m		堆砂容量	700,000m ³	
	法勾配	上流鉛直（フィレット1：0.2）下流1：0.75		常時満水位	EL136.5m	
	堤体積	245,600m ³		サーチャージ水位	EL164.0m	
	非越流部標高	EL167.5m		計画堆砂面	EL135.4m	
	越流部標高	EL164.0m		水没補償	水没戸数	12世帯15戸
	地質	凝灰質細粒砂岩及び粘板岩			宅地	15,000m ²
	設計洪水流量	630m ³ /sec			畑	60,000m ²
放流設備	常用洪水吐	オリフィスによる自然調節 D = 1,400mm × 1門	山林原野		304,000m ²	
	非常用洪水吐	クレスト自由越流 高2.5m × 幅14.1m～14.3m × 6門	市道付替	2,500m		
	低水放流設備	φ500ジェットフローゲート1門	林道付替	4,200m		

貯水池容量配分図





陸中海岸国立公園の中央にある釜石市は、日本製鉄株式会社の北日本製鉄所釜石地区で代表される鉄の都で、豪華な外国船が出入りするエキゾチックな国際港です。漁業においても三陸沿岸の拠点として15の漁港をもち、年間約30億円の陸揚高を誇っています。

尾崎半島や馬田岬、鎌崎の上につつ釜石大観音、三貫島や御箱崎など、その恵まれた観光資源で、観光都市としても脚光をあびています。

また橋野高炉跡は、幕末から明治期にかけて日本の産業化の先駆けとなった重工業分野における産業遺産群「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産として、ユネスコ世界遺産に登録されました。

市のシンボル



はまゆり



おおみずなぎどり



たぶのき